

(51) Int.Cl. ⁶	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
A 0 1 K 87/08		8602-2 B	A 0 1 K 87/ 00	6 2 0 D

請求項の数1(全 5 頁)

(21) 出願番号	実願平2-84826	(71) 出願人	999999999 ダイワ精工株式会社 東京都東久留米市前沢3丁目14番16号
(22) 出願日	平成2年(1990)8月11日	(72) 考案者	橋本 祐次 東京都東久留米市前沢3丁目14番16号 ダイワ精工株式会社内
(65) 公開番号	実開平4-43967		
(43) 公開日	平成4年(1992)4月14日	審査官	星野 浩一

(54) 【考案の名称】 釣 竿

1

【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】 元竿にリールシートを装着すると共に、リールシートの後部の下側部に軸長方向に間隔をおいて指掛け用の膨出部を複数突出形成すると共に、該膨出部を形成した握持部の断面形状を水平方向は短寸法に上下方向は長寸法にしたことを特徴とする釣竿。

【考案の詳細な説明】

【産業上の利用分野】

この考案は、磯釣り等で魚釣用両軸受型リールを装着して用いる釣竿に関する。

【従来技術】

従来磯釣り等で釣竿に魚釣用両軸受型リールを取り付けて用いる時は、例えば実開昭55-128575号公報のように釣竿に装着したリールシートに取り付け、両手で釣竿を握って仕掛を投げるとともに、スプールから繰り出さ

2

れる釣糸にサミング操作で制動を掛ける場合は、リールシート後部の移動フード固定用ナット外周や釣竿外周を握った手の指をスピールのフランジ外周の縁に当てていた。

【考案が解決すべき問題点】

前記ナット外周を握る時は、手に力が入るので握り難く、釣竿外周を握る時は、実開昭63-107168号公報のように釣竿外形がストレートの時はスピニングリールの場合にはリール脚を握るから問題ないが、魚釣用両軸受型リールの場合は、サミング操作する側の手が滑って握り難いとともに、安定性に欠けて投げ難い等の欠点がある。

更に大型魚釣用両軸受型リールの場合には、釣竿を充分に手の中に入れて握れないから滑り易い欠点がある。

本考案は前記欠点に鑑み、リールシート後部のすぐ後ろに手の指が掛かって滑らない握持部を設けて仕掛が投

3

げ易いとともに、サミング操作を容易に、かつ安定して行える釣竿を提案することである。

〔問題点を解決するための手段〕

本考案は前記問題点を解決するための構成として、元竿にリールシートを装着すると共に、リールシートの後部の下側部に軸長方向に間隔をおいて指掛け用の膨出部を複数突出形成すると共に、該膨出部を形成した握持部の断面形状を水平方向は短寸法に上下方向は長寸法にしたことを要旨とするものである。

〔実施例〕

以下、図示の実施例によって本考案を説明すると、図示のリールシートは元竿 1 に直接リール載置部 1a が形成されると共に、固定フード 2 と移動フード 3 が設けられている。

第 1 図から第 6 図で釣竿の元竿 1 に前側から固定フード 2 が挿入されて元竿 1 に圧入固定されると共に、元竿 1 外周に形成された雄螺子部 1b にナット 4 が螺合されて固定されている。

固定フード 2 の前側の元竿 1 の上部にはリール載置部 1a が形成され、魚釣用両軸受型リール 5 のリール固定脚板 10 が載せられてリール固定脚板 10 の一方が固定フード 2 のリール脚受入部 2a に挿入されている。

リール載置部 1a の前側の元竿 1 の外周には移動フード 3 が回り止めされると共に前後に移動自在に嵌合され、リール固定脚板 10 の他方が移動フード 3 のリール脚受入部 3a に挿入されている。

元竿 1 の外周に形成された雄螺子部 1c には移動フード 3 を押圧するナット 6 が螺合されている。

移動フード 3 とナット 6 を一体的に移動するように構成してもよい。

固定フード 2 が固定されたナット 4 の後ろ側の元竿 1 の外周には糸巻 11 の後に天然ゴムや合成ゴム等の弾性を有する後側の握持部 7 が嵌合固定されている。

握持部 7 の後側には紐取付用金具 12 が糸巻 13 で固定され、元竿 1 の竿尻中空筒内に腹当て部 14 の取付部が嵌合固定されている。

移動フード 3 を押圧するナット 6 の前側の元竿 1 の外周には天然ゴムや合成ゴム等の弾性を有する前側の握持部 8 が嵌合固定されている。

握持部 8 の前側の元竿 1 の外周には糸巻 15 が成されると共に、その前側に釣糸ガイド 16 が糸巻で固定されている。

前記後側の握持部 7 の形状は第 1 図、第 2 図のように上下に数条の膨出部 7a、7b が形成されて水平方向の寸法 L' を短寸法に、上下方向の寸法 L が長寸法に形成されている。

前記前側の握持部 8 の形状は第 1 図、第 3 図のように両横と下側に夫々膨出部 8a、8b、8c が形成されている。

元竿 1 が握持されて仕掛が投げられる時は、前側の握持部 8 を一方の手で握り、他方の手の人差し指は延ばし

4

て固定フード 2 の側面に当てられ、中指、薬指、小指で元竿 1 を支えるように後側の握持部 7 が握られ、親指を魚釣用両軸受型リール 5 の指載せ用の指載せ板 17 に載せてスプール 18 のフランジ外周の縁に当てられるようにしてサミング操作可能状態にする。

前記状態で仕掛が投げられると、リールシート構成部品のすぐ後ろの後側の握持部 7 に他方の手の指が掛けられ、かつ後側の握持部 7 の下側の膨出部 7b に他方の手の指が掛けられるから手が滑らず、他方の手でサミング操作が安定的に実施出来る。

魚釣用両軸受型リール 5 が大型の時には他方の手が後退されて各指が後側の握持部 7 の下側の膨出部 7b に掛けられるから、リールの大小に対応して安定的に元竿 1 が握持出来る。

更に前側の握持部 8 の握持も突起 8a、8b が握った指の方向に沿って傾斜していると握り易い。

第 7 図は後側の握持部 7 の変形例で、握持部 7 の前側は固定フード 2 を覆うように形成されて下側に膨出部 7c が形成されている。

膨出部 7c が形成されていると、指が掛けられる膨出部の数が増えてさらに安定して元竿 1 が握持出来ると共に、サミング操作がし易くなる。

第 8 図、第 9 図は後側の握持部 7 のさらに他の変形例で、握持部 7 の下側は第 9 図のように断面楕円形でかつ複数の曲面からなる膨出部 7d が形成されている。

〔考案の効果〕

本考案は前述のように構成されたから、リールシート構成部品のすぐ後ろの握持部を握る手の指が握持部の膨出部に掛けられて手が滑らず、サミング操作が安定的に実施出来ると共に、魚釣用両軸受型リールが大型の時には手を後退されて指が握持部の下側の膨出部に掛けられるから、リールの大小に対応して安定的に元竿が握持出来てサミング操作がし易い等実用上優れた効果を奏する釣竿を提供することが出来る。

〔図面の簡単な説明〕

図面は本考案の実施例が示され、

第 1 図は釣竿の要部拡大側面図、

第 2 図は第 1 図の II-II 線断面背面図、

第 3 図は第 1 図の III-III 線断面背面図、

第 4 図は元竿の全景を示す側面図、

第 5 図は釣竿の断面側面図、

第 6 図は釣竿の平面図、

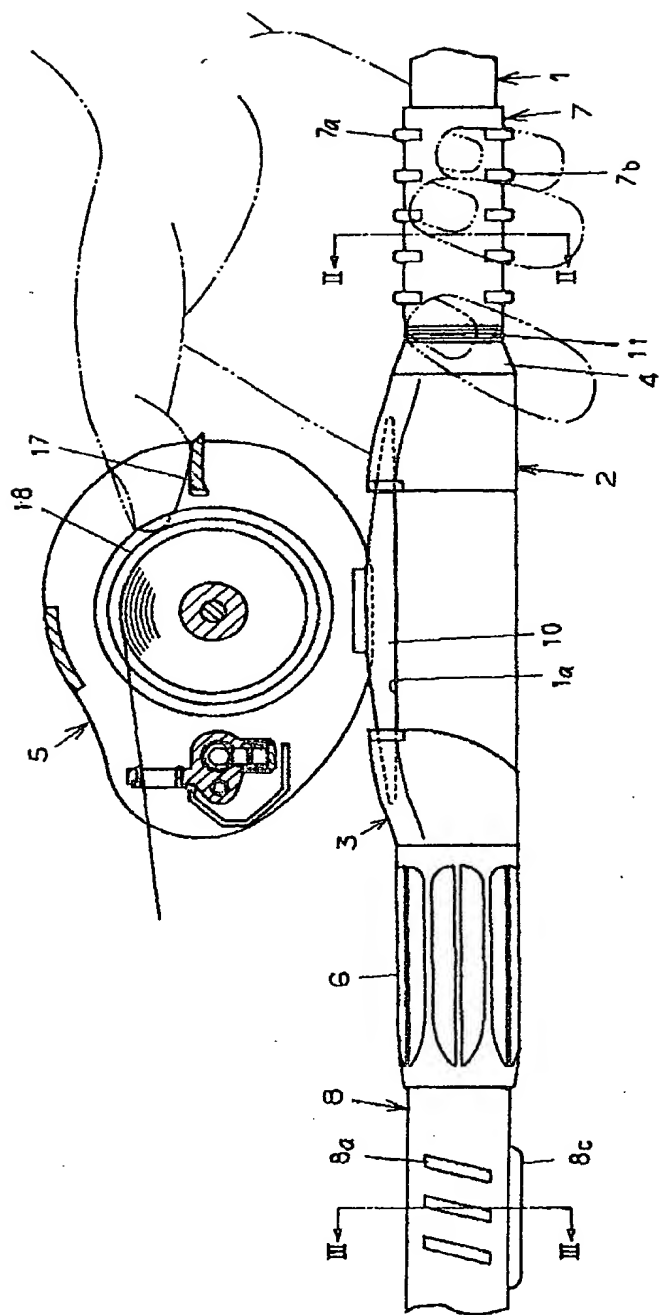
第 7 図は後側の握持部の変形例を示す釣竿の要部拡大側面図、

第 8 図は後側の握持部の他の変形例を示す釣竿の要部拡大側面図、

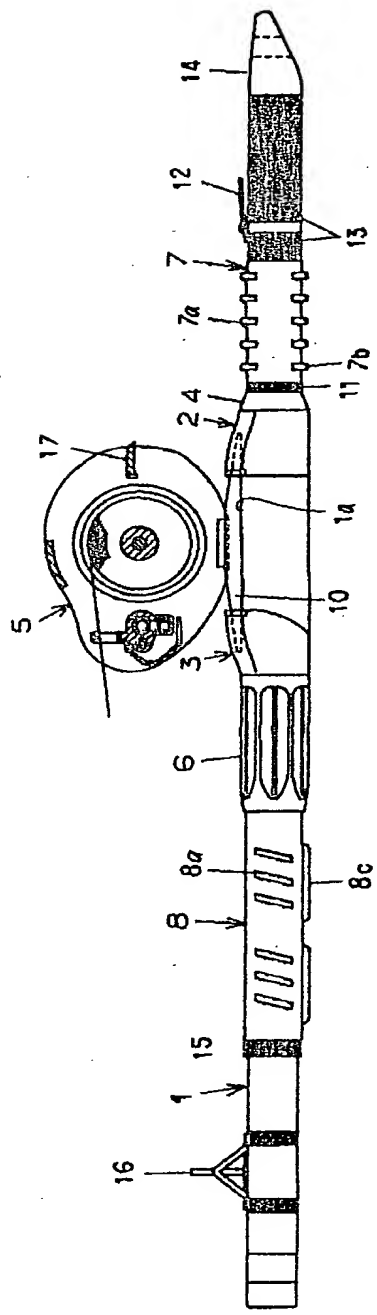
第 9 図は第 8 図の IX-IX 線断面正面図である。

1 … 元竿、1a、2、3、4、6 … リールシート構成部品、7 … 握持部、7a、7b、7c、7d … 膨出部、L … 上下方向の寸法、L' … 水平方向の寸法。

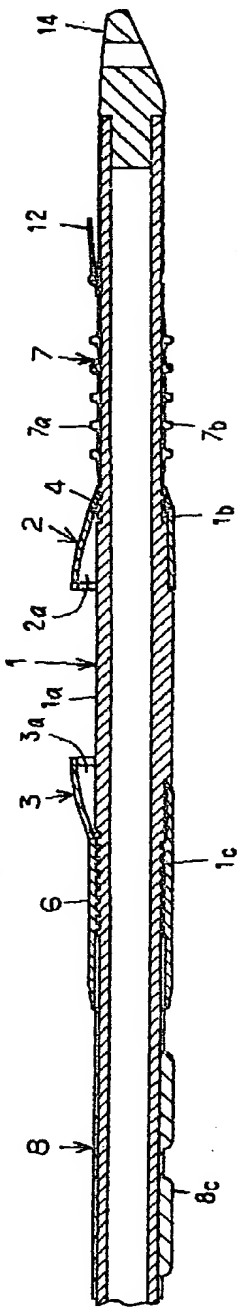
【第1図】



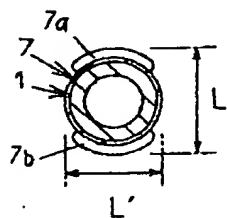
【第4図】



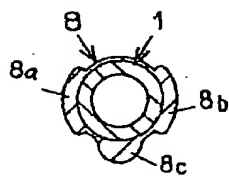
【第5図】



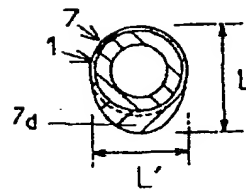
【第2図】



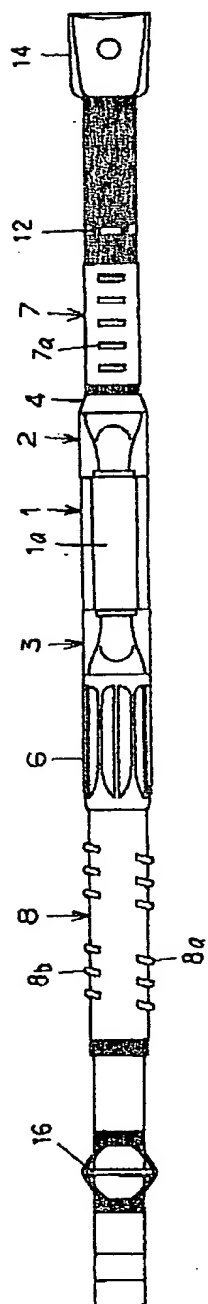
【第3図】



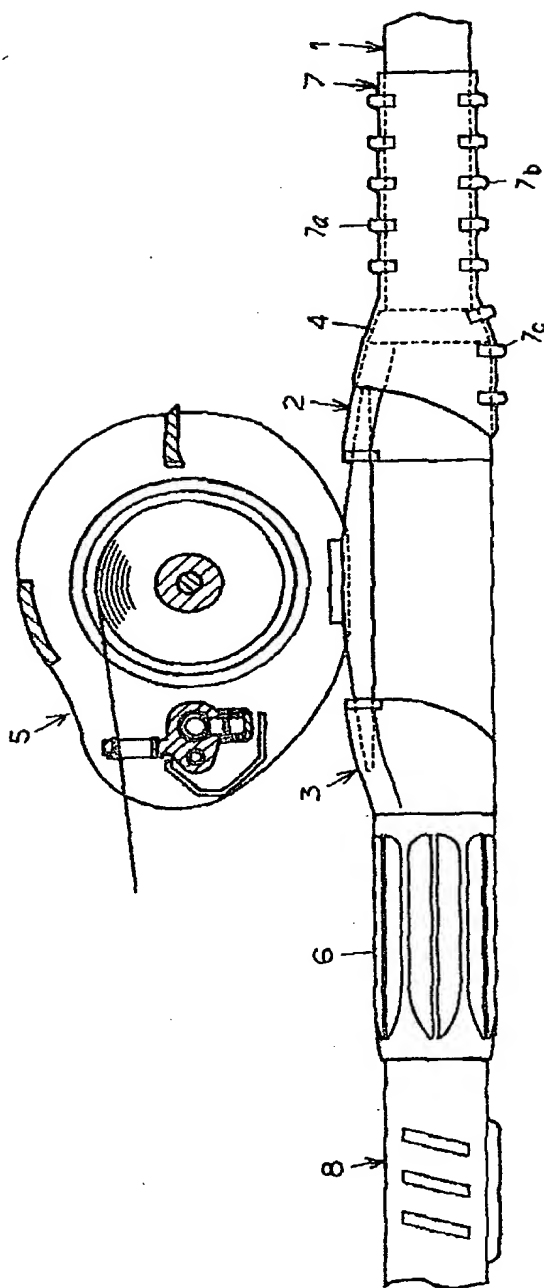
【第9図】



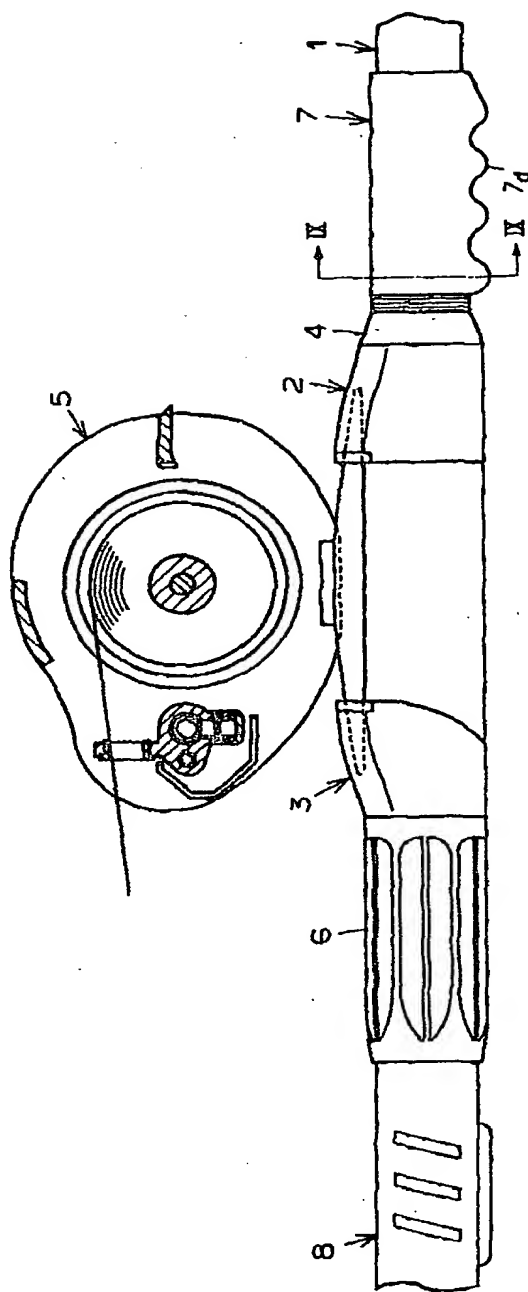
【第6図】



【第7図】



【第8図】



THIS PAGE BLANK (USPTO)